

2021年度第4回阪神競馬特別レース名解説

<第1日>

○ りんどう賞

りんどうは、リンドウ科の多年草。日本全土に分布し、秋に青紫色の鐘状の花を数個開花させる。根は苦みが強く、竜胆（りゅうたん）の名で健胃薬として用いられる。花言葉は「正義」「誠実」。

○ 播州ステークス

播州（ばんしゅう）は、兵庫県南西部を占める旧国名。播磨の別称であり、山陽道の一國。明治4年（1871）の廃藩置県で兵庫県と姫路県に分かれ、その後、姫路県は飾磨県と改称されたのちに兵庫県に合併された。

○ 夕刊フジ杯オパールステークス（L）

オパール（Opal）は、真珠のような光沢をもつ半透明の鉱物で10月の誕生石。

夕刊フジは、産業経済新聞社より発行されている夕刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 三田特別

三田（さんだ）は、兵庫県南東部の三田盆地にある市。名は、名刹・金心寺の弥勒菩薩像の胎内に「当地一帯を松山の庄と号す。これを金心寺恩田・悲田・敬田の三福田を以って三田と改む」と記されていたことに由来する。1980年代以降のニュータウン開発を軸に発展している。

○ 戎橋ステークス

戎橋（えびすばし）は、大阪市中部、道頓堀川にかかる橋のひとつ。江戸時代に、今宮戎神社への参道として町人たちの手で作られた町橋として有名。

○ 農林水産省賞典京都大賞典（GⅡ）

本競走は、昭和41年に『ハリウッドターフクラブ賞』の名称で創設された重賞競走。創設時は3200mだったが、翌年2400mに短縮され、49年に現在の競走名に改称された。なお、第1着馬には同年の天皇賞（秋）への優先出走権が与えられる。本年は京都競馬場整備工事に伴い、阪神競馬場において実施される。

<第3日>

○ 紫菊賞

紫菊（しぎく）は、紫色の花をつける菊の総称。菊は、食用としても古くから親しまれ、お浸し・酢の物・天ぷら・吸い物など様々な料理に用いられる。中でも赤紫色系統の菊は、栄養価の高さから延命薬とも呼ばれている。

○ 北國新聞杯

北國新聞は、北國新聞社より発行されている日刊紙。同社は、石川県金沢市に本社を置く。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 太秦ステーキス

太秦（うずまさ）は、京都市右京区の地名。国宝第一号である『弥勒菩薩半跏思惟像』が安置されている真言宗御室派の広隆寺は「太秦のお太子さん」として親しまれている。

<第4日>

○ もみじステーキス

もみじは、晩秋に木の葉の色が変化する現象。また、カエデ科の数種を指す総称。日本列島には秋に紅葉する植物が非常に多く自生しており、その数は 100 種類以上と言われている。

○ 西宮ステーキス

西宮（にしのみや）は、兵庫県南東部の市。西宮神社の門前町としてだけでなく、西国・中国街道の合流地であることから宿場町としても栄えた。南部にある阪神甲子園球場は、高校野球の全国大会が行われることで知られ、プロ野球チームのひとつである阪神タイガースのホームグラウンドとしても有名。

○ 秋華賞（G I）

本競走は、平成 8 年に創設された 3 歳牝馬限定の重賞競走。7 年まで『桜花賞』『優駿牝馬（オークス）』に続く牝馬三冠最後の競走は『エリザベス女王杯』であったが、同競走の出走馬資格が 3 歳以上牝馬となったことに伴い、新たに三冠を締めくくる競走として本競走が設けられた。本年は京都競馬場整備工事に伴い、阪神競馬場において実施される。

秋華（しゅうか）は、中国の詩人である杜甫や張衡が文字通り「あきのはな」として詩中で用いた言葉。「秋」は大きな実りを表し、「華」には名誉・盛り・容姿が美しいという意味が込められている。

○ 平城京ステークス

平城京（へいじょうきょう）は、元明天皇の和銅3年（710）に藤原京から遷都し、桓武天皇の延暦3年（784）に長岡京に遷都されるまでの都。京域は現在の奈良市から大和郡山市に及び、主要部は東西約4.3km、南北約4.8km。北端中央を平城宮とし、その南面中央から南下する朱雀大路の東側を左京、西側を右京、左京の東側へ張り出した部分を外京と呼んだ。

<第5日>

○ 兵庫特別

兵庫（ひょうご）は、近畿地方西部の県。かつての但馬・播磨・淡路の三国および摂津、丹波の二国の一部。また、神戸市中部の区。沿岸部は古くからの良港で、奈良時代に大輪田泊が築かれて以降発展し、中世には兵庫津として日宋、日明貿易の拠点として栄えた。

○ トルマリンステークス

トルマリン（Tourmaline）は様々な色彩を持つ鉱物グループの総称。名は、スリランカのシンハラ語で「トルマリ」と呼ばれていた宝石に由来する。10月の誕生石として知られ、周囲に電気を帯びる性質を持つことから電気石とも呼ばれる。

○ 大阪スポーツ杯

大阪スポーツは、東京スポーツ新聞社の関西支社が発行するスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ なでしこ賞

なでしこは、ナデシコ科ナデシコ属の多年草の総称。ナデシコ属の植物は世界各国に分布しており、日本原産の種も存在する。夏から秋にかけて桃色の花を咲かせる。秋の七草のひとつで、ヤマトナデシコ、カワラナデシコなどの別名がある。花言葉は「純愛」「大胆」。

○ 北摂特別

北摂（ほくせつ）は、旧摂津国北部の地域。広義では兵庫県の一部も含まれるが、一般的には淀川以北の大阪府北西部を指し、池田・豊中・箕面・吹田・茨木・摂津・高槻の7市と、島本・能勢・豊能の3町が含まれる。

○ 元町ステーキス

元町（もとまち）は、神戸市中央区にある地名。明治時代以降「ハイカラ」や「ハイセンス」の代名詞としてその名を馳せ、商業地域として発展してきた。全長 1.2km の神戸元町商店街には、約 300 の商店が軒を連ね「元町らしさ」を意識したまちづくりと景観維持により、賑わいの中にも落ち着いた雰囲気漂っている。

なお、同地には JRA の場外勝馬投票券発売所であるウインズ神戸がある。

○ 菊花賞（G I）

本競走は、イギリスの『セントレジャー』に範をとり、昭和 13 年に『京都農林省賞典四歳呼馬競走』として創設された重賞競走。23 年より現在の名称になり、スタンド改築時を除き、距離や実施場は第 1 回から変わらず今日まで受け継がれている。『皐月賞』、『東京優駿（日本ダービー）』に続く 3 歳クラシック三冠の最終関門。本競走は、「最も強い馬が勝つ」と言われており、二度にわたる坂越え、3000m の距離を乗り切るスピードとスタミナを兼ね備えた馬に栄冠が輝く。本年は京都競馬場整備工事に伴い、阪神競馬場において実施される。

菊花（きくか）は、菊の花の意。菊は、キク科キク属の多年草で、世界中に 1 万種以上あると言われている。色や形は種類によって多岐に渡り、観賞用だけでなく食用としても用いられる。花言葉は「高貴」「高尚」。

○ 天王寺ステーキス

天王寺（てんのうじ）は、大阪市の区。また、同区と阿倍野区を含めた地域の総称。名は、聖徳太子が建立したとされる四天王寺に由来する。商業施設が数多く立ち並び、「キタ」「ミナミ」に次ぐ、大阪市有数の繁華街となっている。

<第 7 日>

○ 萩ステーキス（L）

萩（はぎ）は、マメ科ハギ属の落葉低木の総称。葉は 3 枚の小葉からなる複葉で楕円形。秋の七草のひとつで、紅紫色の蝶形花を対生状につける。花言葉は「想い」「思案」。

○ 西脇ステーキス

西脇（にしわき）は、兵庫県中央部、加古川中流域にある市。綿織物業が盛んで、寛政 4 年（1792）に比延庄村の飛田安兵衛が京都西陣織の技術を持ち帰り、杉原川などの良質な水を利用して始めたと言われている播州織で知られる。また、JR 加古川線比延駅の北には北緯 35 度と東経 135 度の交点があり、日本のへそと言われている。

○ MBS賞スワンステークス（GⅡ）

本競走は、昭和 33 年に創設された重賞競走。創設当初は春季の 1800m、ハンデキャップ戦で実施されていたが、36 年より別定重量戦に変更され、さらに幾度かの変更を経た後、59 年から秋季の 1400m で実施されている。なお、第 1 着馬には同年のマイルチャンピオンシップへの優先出走権が与えられる。本年は京都競馬場整備工事に伴い、阪神競馬場において実施される。

スワン（Swan）は、白鳥を意味する英語。京都競馬場のスタンド「ビッグスワン」の名称にも使用されている。

MBS は、大阪市に本社を置く放送局。昭和 26 年開局で JRN、NRN 系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 8 日>

○ 古都ステークス

古都（こと）は、古い都・旧都という意味。京都は、延暦 13 年（794）の平安遷都から、明治 2 年の東京遷都まで 1000 年以上にわたって日本の首都であった。かつての皇居、京都御所が京都市中心部にあり、その広大な敷地は京都御苑と呼ばれ市民の憩いの場となっている。

○ オータムリーフステークス

オートムリーフ（Autumn Leaf）は、紅葉を意味する英語。兵庫県では、姫路城を借景とした姫路城西御屋敷跡庭園や、「天目カエデ」が境内を埋めつくす高源寺が紅葉で有名。

○ カシオペアステークス（L）

カシオペア（Cassiopeia）は、北の空に見られる星座。北斗七星とともに北極星を探す指標となる星座として知られている。星座の形が M 型や W 型に見えることから「山形星」「錨星」とも呼ばれる。名は、ギリシャ神話に登場する古代エチオピア王妃のカシオペイアに由来する。